

# ベスト・オブ・ブリードの クラウドレイクハウスデータ 管理が重要な理由

## メリット

- データウェアハウス/データレイクの統合と最新化に伴うリスクとコストを削減
- 迅速に価値を引き出して、短期間でROIを実現
- 生産性と効率性の向上
- エンドツーエンドのデータリネージでデータ環境全体を可視化
- 将来の変化にも対応できるクラウド環境を構築
- 業務担当者や非技術系ユーザーに信頼できるインサイトを提供

## クラウドデータウェアハウスやデータレイクの真価を手に入れるために必要なソリューション

今日、多くの企業が俊敏性、拡張性、柔軟性、コスト削減を求めてクラウドへの移行を急速に進めています。このようなクラウド移行の一環として、クラウド内に新しいデータウェアハウス/データレイクを構築するか、またはオンプレミスのデータウェアハウスをクラウド内で最新化/統合することで、クラウドアナリティクスのイニシアチブをサポートしています。さらに最近では、クラウド内にレイクハウスを構築する企業も増えています。レイクハウスとは、データウェアハウスとデータレイクを1つのデータプラットフォームに統合したもので、両方の長所を兼ね備えており、業務アナリティクスおよび意思決定のテクノロジーと調査アナリティクスおよびデータサイエンスのテクノロジーの両方を利用できます。

しかし、複雑なマルチクラウド環境により、多くの企業がクラウドアナリティクスを最大限に活用することに苦戦しています。特に、データウェアハウス/データレイクをクラウドに統合してモダナイズ（最新化）する際にデータ品質とデータ管理が重大な課題となり、迅速なROI実現の障害となっています。

企業がクラウドを活用してアナリティクスを構築、統合、最新化する上で、大きな課題となるのがデータです。アナリスト企業のTDWI社によると、クラウドデータウェアハウス/データレイクの導入を成功させる上での最大の障壁として、調査対象企業の大部分（64%）がデータ品質とデータ管理を挙げています。<sup>1</sup>また圧倒的多数（86%）が、データ戦略を成功に導くためには体系的なクラウドデータ管理アプローチが重要であると回答しています。この体系的なアプローチがなければ、開発期間の短縮、コストの削減、効率性の向上、拡張性と柔軟性の改善を実現することも、信頼できるインサイトに基づいて業務上の意思決定を行うこともできません。

これらの課題は決して目新しいものではなく、オンプレミスのデータウェアハウス/データレイクに付き物だった困難な課題やミスが、データレイクでも発生しています。クラウドへの移行によってこれらの課題を回避できる企業は、競争優位性を獲得して、イノベーションを促進し、投資からより多くの価値を迅速に引き出すことが可能になります。

<sup>1</sup> TDWI Best Practices Report: クラウドデータ管理

## クラウドのメリットを活用して、データ管理に伴う過去の過ちを回避

すでにオンプレミスのデータウェアハウス／データレイクへ投資している企業にとっても、ゼロからクラウドで構築しようとしている企業にとっても、データ品質とデータ管理の適切なアプローチは不可欠です。

オンプレミスの時代には、データ品質とデータ管理の課題により、アナリティクスイニシアチブから最大限の価値を引き出すことに多くの企業が苦しんでいました。データウェアハウスは高コストであるだけでなく、拡張性と柔軟性に欠けていました。一方データレイクの多くは、データの「泥沼」と化しており、データ主導の新しいインサイトを獲得するための俊敏かつ革新的なソリューションとはとても呼べませんでした。

失敗の原因として、次の3つの最適とは言えないアプローチが挙げられます。

- ・ 手作業：手作業でのコーディングに基づいて、データ品質とデータ管理の課題を解決しようとしていた
- ・ 連携不足：連携に乏しいポイント製品でエンドツーエンドのデータ管理に対応しようとしていた
- ・ 不十分な機能：基本的なデータ統合／取り込み機能しか備えていない、クラウドベンダー提供のソリューションを使用していた

クラウドに移行しても、手作業によるアプローチ（手作業でのコーディングなど）では開発コストが高くなり、保守が困難になります。手作業でのコーディングは、プロジェクトの初期段階においては妥当な解決策に思えるかもしれませんが、いくつかの欠点もあるため、最新のクラウドレイクハウスのデータ管理には不向きです。手作業でのコーディングには、高度なスキルを持つ開発者が必要で、再利用性に欠けます。テクノロジー、プラットフォーム、処理エンジンを変更するたびに、再エンジニアリングや再コーディングが必要になります。これはコストと時間のかかるプロセスであるため、俊敏性とイノベーションが損なわれることになります。

さらに、統合されていない複数のポイント製品を使用すると、コストと複雑さが増大します。真にエンドツーエンドのクラウドレイクハウスデータ管理を実現するために、多ければ10ものポイント製品が必要になる場合があります。これらの連携に乏しい製品を使用する場合、統合作業を自ら頻繁に行わなければなりません。さらに、ロードマップの変更やプロジェクトの長期化、整合性のないデータガバナンスとデータ品質などに悩まされることになります。

PaaSベンダーやIaaSベンダーが提供するクラウドソリューションは機能に制限があり、上記の欠点を数多く抱えています。一般的にこれらのソリューションは基本的なデータ統合／取り込み機能しか備えておらず、手作業でのコーディングを必要とし、機能を拡張したくてもベンダー固有のプラットフォームに制約されることになります。

## 独立したクラウドレイクハウスデータ管理ソリューションの重要性

クラウドデータウェアハウス／データレイクイニシアチブを迅速に進めたい場合、高コストで非効率的なアプローチを避けて（手作業でのコーディング、ポイント製品、制約のあるソリューションなど）、ベストオブブリードの独立したクラウドレイクハウスデータ管理ソリューションを選択する必要があります。

Informatica® Cloud Lakehouse Data Managementソリューションは、データウェアハウスとデータレイクを最新化するための、市場で唯一のエンタープライズクラスでクラウドネイティブなエンドツーエンドのクラウドデータ管理ソリューションです。業界先進のInformatica Intelligent Cloud Services (IICS)™を基盤とする、最新のモジュール式、マルチクラウド、マイクロサービスベース、API主導、AI搭載のiPaaSとして、Informatica Cloud Lakehouse Data Managementソリューションは以下のベストオブブリードの機能を備えています。

- **データ統合**：インテリジェントな自動データ統合機能により、迅速かつ効率的にデータパイプラインを構築して、クラウドデータウェアハウス/データレイクにデータを供給できます。
- **データ品質およびデータガバナンス**：インテリジェントな自動データ品質/データガバナンスにより、データをクレンジングおよび標準化し、信頼性とセキュリティを確保できます。
- **メタデータ管理**：全社レベルの共通メタデータ基盤により、環境全体にわたるインテリジェントで自動化された、エンドツーエンドの可視性とリネージを実現します。

このソリューション全体がAIベースのインテリジェンスと自動化に基づいて構築されています。このように包括的でインテリジェントなクラウドネイティブの自動ソリューションにより、クラウドデータウェアハウス/データレイクに関連する、あらゆる複雑なデータ管理課題に対応できます。

## Informatica Cloud Lakehouse Data Managementの利点

- データ管理の課題へ対応する際に、手作業でのコーディングや機能が限られた複数のポイント製品の使用を回避することで、統合やモダナイゼーションのイニシアチブに伴うリスクを軽減できます。
- 可用性とセキュリティに優れた統合ソリューションによって、クラウドの拡張性と俊敏性を活用するとともに、ジョブの迅速な展開、最低限のインストールとセットアップ、アップグレードの自動化、データオンボーディングの高速化を実現できます。
- データウェアハウス/データレイクのクラウド移行/モダナイゼーションプロジェクトをスケジュール通りに完了することで、開発期間を短縮して、迅速にROIを達成できます。
- マルチクラウド環境全体にわたりインテリジェンスと自動化を提供する、包括的な統合クラウドレイクハウスデータ管理ソリューションにより、生産性を高めて、コストを削減できます。
- インテリジェンスと自動化を通じて、ソフトウェア開発ライフサイクル (SDLC) 全体の効率性を高めることで、プロジェクトを高速化できます。
- あらゆるタイプのデータベース、SaaSアプリケーション、ETLツール、BIツールなどのメタデータをスキャンして、連携させることで、可視性を高めて、完全かつ詳細なデータリネージを確立できます。
- 将来の変化にも適応していくことができる環境を構築して、変化の激しいクラウドプラットフォーム (Amazon Web Services、Microsoft Azure、Google Cloud Platform、Snowflake、Databricks Delta Lakeなど) に対応しながら、マルチクラウド環境をサポートできます。
- 高パフォーマンスのデータ統合を通じて、新しいデータウェアハウス/データレイクをクラウドにデプロイすることで、すべてのデータに接続して、大量のデータをシームレスに統合し、あらゆるアナリティクスワークロードを実行できます。
- 数百ものデータソースへすぐに接続できる機能を活用して、コーディング不要の視覚的な統合と、あらかじめ組み込まれた複雑なトランスフォーメーションを活用することで、高度なトレーニングの必要なしに短期間で実装して稼働させることができます。
- 非技術系の新規ユーザー向けのデータパイプラインを迅速に開発、実装、更新することにより、短期間で市場展開することができます。

## インフォマティカについて

デジタルトランスフォーメーションによって我々の期待値が変化しています。より良いサービスを、素早く、便利に、低コストで利用したいという期待が高まっているのです。企業も状況に応じて変化する必要があります。そしてそのヒントは「データ」にあります。

エンタープライズ向けクラウドデータ管理で世界をリードするインフォマティカは、俊敏性の向上、新たな成長機会の獲得、新しいソリューションの開発を実現するための洞察を通じて、あらゆる産業や分野の企業がインテリジェントにビジネスをリードできるよう支援します。インフォマティカは、あらゆるデータを徹底的に重視し、企業の成功に必要なとされる汎用性を提供します。

インフォマティカは、企業がこれからのインテリジェントな破壊的イノベーションを推進できるよう、当社が提供するあらゆるサービスを通じてデータの力を継続的に引き出すことを支援します。

業界先進の、メタデータ主導のクラウドレイクハウスデータ管理ソリューションを使用することで、マルチクラウドのハイブリッド環境におけるクラウドデータウェアハウスやデータレイクから最大限の価値を引き出すことができます。効率の向上とコスト削減を実現できるだけではなく。小規模から始め、AIをベースにしたインテリジェントなデータプラットフォームで、クラウド向けに構築されているベストオブブリードのデータ統合、データ品質、ガバナンス、メタデータ管理を活用しながら拡張していくことが可能になります。

## 今後のステップ

インフォマティカのクラウドレイクハウスデータ管理の詳細について、いつでもお気軽に[お問い合わせ](#)ください。



〒105-6226

東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階 電話：03-6403-7600（代表）FAX：03-3433-1021

IN08\_0420\_03877

© Copyright Informatica LLC 2020. Informatica, Informaticaロゴ、およびInformatica Intelligent Cloud Servicesは、米国およびその他の国におけるInformatica LLCの商標または登録商標です。インフォマティカの商標の最新版は、<https://www.informatica.com/jp/trademarks.html>をご覧ください。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。